

八剣山通信

2010年11月8日発行

八剣山発見隊

災害復旧に隊員らの支援続々

11月5日(金)から3日間で延べ81人

【支援活動パートⅡ】

10月26日から27日にかけての降雪災害復旧のための作業は雪が解けるまで見合わせていましたが、砥山ふれあい果樹園において10月のりんごの収穫作業支援に引き続き、5日に作業が再開されました。週末の3日間で発見隊員を中心に延べ81人のボランティアがブドウ棚の撤去などに加わりました。



ブドウ棚の復旧作業

砥山ふれあい果樹園では、2か所のブドウ棚(計25アール)が上に積もった雪の重さで倒壊。ブドウの木は殆どが根元から壊れているため、どれだけの木が生き残ってくれるか心配されます。本格的な降雪前にブドウの木を整理しなければ来年の収穫が期待できないため、一日も早い復旧作業が望まれました。

まず倒壊したブドウの木を立て直すためには、約5m間隔に立てられた鋼管の支柱間に張り巡らされたワイヤーと番線をすべて撤去し、複雑に絡み合ったブドウの蔓を開放する必要がありました。木を傷めないように丁寧に撤去するうえで多くの人手が求められる作業となりました。固定用の針金を一本づつ切断したり絡まった蔓を切り離すためには、中腰の姿勢での作業となりましたが参加者は忍耐強く働きました。

ブドウ棚の再建までを見据えると、現在の作業の進捗状況は約30%程度と思われますが、それでもボランティアの皆さんのが働きで困難なワイヤーや針金の引き抜き作業が8割ほど完了しました。引き続き、残りの作業の継続にもかなりの人手が必要と

されています。

一方、大きな被害を受けたりんごの木についても、チェーンソーを使って損傷部分の切り落としが行われ、膨大な幹や枝の整理作業が必要です。

また、りんごの木の折れたり裂けたりした部分の手当も早急に必要であり、エコファーの指定



倒壊したりんごの伐採

を受けている同園では「樹木の味方」という最近注目されている化学薬品ではないワサビ成分から作られたペースト状の薬品を塗布して病気から木を保護する計画です。

今回の支援は新聞やテレビニュースをとおして果樹園の窮状を知った人々が、組織としては9団体、個人としても砥山農業小学校の卒業生の家族のような参加も続々とあり、これだけ大勢の支援受けている背景には、生産者と消費者の交流という活動を地道に続けてきた発見隊や砥山農業クラブの努力が実ったものと思われます。



は、支援を行った果樹園

